

## 【評議員会議事録】

日 時：2008年1月26日（土） 13時～16時50分

場 所：東京八重洲ホール8階会議室

出席者：井上，岡村，海部，郷田，須藤，中川，宮川，渡部，家，坂田，佐藤，谷口，筒井，望月，山田の各氏（15名）

有効表決状提出者：永田，池内，観山の各氏（3名）

欠席者：杉山，柴田の各氏（2名）

他に，理事会より土佐理事長，柴橋副理事長，花岡，高田，北本，田村の各理事，井田研究奨励賞選考委員，山岡天体発見賞選考委員長，東條事務長が出席した。

議事に先立ち，議長に井上氏，署名人として家，谷口両氏を選出した。

## 報 告

### 1. 前回議事録の確認

高田庶務理事より前回の議事録が資料1に基づいて説明され承認された。

### 2. 2008年春季年会について

高田庶務理事より資料2に基づいて2008年春季年会の準備状況について報告が行われた。

3月24（月）～27日（木）に代々木のオリンピックセンター内で開催，初日は午後開始で最終日は16時まで。総会，懇親会などは3月26日（水）にまとめて行われることもあわせて報告された。講演会場は7会場で，ポスター会場は3カ所に分かれる。記者会見は3月23日（日）に記念講演会の会場で。

### 3. 記念切手に関する報告

学会創立百周年の記念切手の現状について北本会計理事より口頭で報告が行われた。1月18日に日本郵便・天文学会で報道発表を行った。確認したところでは4つの新聞等で報道があった。報道発表時に使用された資料を回覧し，また，記念式典で参加者に配る際の「たとう」のデザイン案についても回覧された。今後，式典配布のための注文数を確定して発注する予定。

### 4. 2010年までの年会開催地について

2010年までの年会開催地について高田庶務理事より資料3に基づいて説明があった。懸案であった2010年度については春は広島大学，秋は金沢大学において行うことが決定した旨報告された。

### 5. 百周年記念講演会・祝賀会の申し込み状況について

柴橋副理事長より資料4に基づいて百周年記念講演会・祝賀会の申し込み状況について説明が行われた。1月22日現在，記念講演会135名，祝賀会93名の申込者があった。また，3月23日の記念講演会のプログラム案も示された。また，招待をする方のリストも示され，現在コンタクトを行っている最中であることもあわせて報告された。ポスターを既に各大学や公共天文台等に発送したこと，まだ申込者が少ないので宣伝に今後も努める必要がある点が強調された。

### 6. 2007年度早川基金採択一覧表

高田庶務理事より資料5に基づいて2007年度早川基金採択者一覧が示された。

### 7. プラズマ共催セッションについて

高田庶務理事より，資料6に基づいて，日本物理学会，日本地球電磁気・惑星圏学会，日本天文学会によるプラズマ共催セッションの今後の開催方針について説明があった。好評のため，3学会の持ち回りの2巡目に入ることを決めたこと，天文学会にて行うのは2010年度となることが報告された。また，他学会からの参加者についての登録料について，天文学会会員と同等に扱えるよう現在検討中であることもあわせて報告された。

### 8. その他

#### (1) 公開講演会について

渡部教育理事より，資料7に基づいて日本天文学会公開講演会-学会創立百周年を記念して-について説明が行われた。3月29日（土）11時～17時に有楽町朝日ホールで開催予定。テーマは「天文学-こ

れまでの百年、これからの百年」として、第1部を「天文愛好家と天文研究者の百年」として、また第2部を最新の天文学の紹介として行うことを予定。

## (2) 世界天文年について

海部氏より2009年の世界天文年についての準備状況について口頭で説明があった。募金委員会の活動は今後本格化すること、プラネタリウム協会、公開天文台、天文教育普及研究会等の協力をあおぎながら進めていることが紹介された。

また、天文学会として後援会に取り組んでいただけないかとの要請があり、今後検討することとした。パンフレットが配布された。企画委員会では種々の企画検討が進んでおり、国際共同では東アジアの星の民話・神話を集めて出版する計画があることなどが紹介された。

また、渡部氏より配付資料に基づいて、「世界天文年2009星空ブックフェア～本をまくらに宇宙を見よう～」の企画について説明が行われた。2009年中、天文学・宇宙科学に関する出版物を広く世間にアピールすることが目的。全国書店に特設スペースの設置をするなどのプログラムを用意する予定とのこと。

また、柴橋副理事長より、天文学会が中心になって企画している望遠鏡の歴史についての巡回展の説明が口頭で行われた。2009年6月～9月の国立科学博物館を皮切りに、仙台、名古屋、大阪を回る予定。

世界天文年に関して日本における予算規模について質問があり、まだ未定であり、検討中であることが示された。

## 議 題

### 1. 2007年度各賞受賞者の決定

#### (1) 天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞

資料8-1及び回覧資料に基づいて、天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞の選考結果について山岡天体発見賞選考委員長より報告が行われた。

天体発見賞については11氏18件の候補が推薦され、下記のように受賞者が決定された。

板垣公一氏（7件）、中村祐二氏（2件）、土井隆雄氏（1件）、多胡昭彦氏（1件）、西村栄男氏（1件）、櫻井幸夫氏（1件）、安部裕史氏（1件）、内藤博之氏（1件）、市村義美氏（1件）、金田 宏氏（1件）、広瀬洋治氏（1件）

天体発見功労賞については4氏5件の候補が推薦され、下記のように受賞者が決定された。

櫻井幸夫氏（1件）、西村栄男氏（1件）、中村祐二氏（1件）、多胡昭彦氏（2件）

天文功労賞の長期的な業績については13件12氏の中から1件の候補が委員会により推薦され、下記のように受賞者が決定された。

浦田 武氏

また、短期的な業績については5件6氏の中から3件4氏の候補が委員会により推薦され、下記のように受賞者が決定された。

内那政憲氏、西山浩一氏、花島富士夫氏、板垣公一氏

なお、推薦書類の文面については表現をよく検討して修正するべきであることもあわせて了承された。

#### (2) 研究奨励賞

井田研究奨励賞選考委員より、資料8-2に基づいて、研究奨励賞の選考及び受賞候補者について説明が行われた。過去最多の13件の推薦があり、3氏について委員会から推薦を行う旨説明があり、議論の後、下記のように決定した。大内正己氏、高田昌広氏、野村英子氏

#### (3) 林 忠四郎賞、欧文研究報告論文賞

土佐理事長より資料8-3に基づいて林 忠四郎賞、欧文研究報告論文賞についての選考過程と候補者の推薦が行われた。

林 忠四郎賞については4名の候補者の中から1名を推薦することが委員会より提案され、下記のよ

うに決定した。 嶺重 慎氏

欧文研究報告論文賞については4編の候補より2編を推薦することが委員会より提案され、業績の説明文書の表現について修正を加えることを条件に下記のように決定した。

I. Iwata, et al., Lyman Break Galaxies at  $z \sim 5$ : Luminosity Function 第55巻415-432頁2003年

T. Goto, et al., The Environment of Passive Spiral Galaxies in SDSS 第55巻757-770頁2003年

なお、選考過程について一般からの推薦件数が少ない点が指摘されたほか、この賞は元々科学的な意義の高さを評価することが目的になっていたはずが、近年引用件数などに左右されすぎていないかとの意見が出された。今後の選考委員に対して過去のいきさつ等を正しく伝えるべきであるとの意見で一致した。

## 2. 2007年度事業報告書案

高田庶務理事より資料9に基づいて2007年度事業報告書案が示された。百周年記念出版事業「シリーズ 現代の天文学」についての補足が岡村氏より口頭で行われ、現在9巻目は刊行されたこと、他の巻についても目処はついているので、2008年の早いうちには全て刊行できる見通しであることが示された。これについて、図版の電子版での配布はないのかとの質問が出され、その点については出版社と相談をする必要があるとの見解が示された。

また、男女共同参画委員会の報告の中での、女性天文学者有志の会の活動について、ハワイに限定されたものではない旨修正が必要であるとの指摘がなされた。

指摘事項を修正することを条件として承認された。

## 3. 2007年度決算報告書案

田村会計理事より資料10に基づいて2007年度決算報告書案について説明があった。

2007年度は全体としては前年度までの黒字からは転じて大きくはないが赤字になった点、PASJの部分の出入りが大きかったこと、出版費に対する補助金が減ってきている点などが指摘された。なお、天文財団においては一部資金については外国金融機関を活用して資金運用をしているとの紹介があり、今後、天文学会においても資金運用については少々工夫をする必要があるかもしれないとの意見が出された。

## 4. 2007年度監査報告

高田庶務理事より資料11に基づいて、1月10日に行われた監査について報告が行われた。

2007年度の事業報告及び決算報告についてそれぞれ監査が行われ、若干の修正の必要性以外は問題なしとの判断をされた旨、報告された。2008年度春季総会議題等

高田庶務理事より資料12に基づいて2008年度春季総会議題等の案について報告が行われ、原案どおり承認された。

## 5. 早川基金の運用変更に関する提案

早川基金の内規変更に関する提案と、変更後の運用案について、栗木早川基金選考委員会委員長の代理として北本会計理事より資料13に基づいて説明が行われた。

内規変更については前回提案時に指摘された文言の不明瞭性を改良した案が提出された。

また、運用案として、援助費目を「滞在費+参加登録料」に対しても広げること、同じ援助費目について他資金からの二重取りは禁止する点を強調することなどが提案された。

また、理事会での議論として、早川基金の運用の仕方そのものについて年額270万円の予算を組んでいるが、毎年500万円の寄付が行われ続けてかなり大幅な黒字が出ている点を考慮して、予算をもう少し多めにとっても良いのではないかとの議論があることが紹介された。

委員からは、運用方法を考える上で、現在の応募者の状況の分析が必要である点、元々は早川基金選考委員会委員長にある程度の予算的な裁量が認められているはずである点などの指摘が行われた。また、現実的には大学院生に対する支援がもっと必要ではとの意見も出され、現状を正しく把握するため、若手の会の代表の評議員を中心に実務理事が協力して、詳細な状況を把握するために、1年ほどをかけて調査をする必要があるとのことで意見が一致した。内規については変更案どおり決定し、運用方針については上記調査結果を見ながら検討を続けることを条件として了承された。

## 6. 衛星設計コンテスト推進委員会に関する内規

北本会計理事より、資料14に基づいて、背景の説明と小委員会として設置する目的の説明が行われた。前回の理事会及び評議員会における議論を反映させる形で改訂した内規案が示され、学会が委員会を設置することで今後も継続的に関わっていく必要があることが強調された。議論の後、原案どおり決定した。

## 7. 指定管理者制度に関する共同声明について

花岡庶務理事より、資料15及び追加の配付資料に基づいて、指定管理者制度に関する共同声明について、天文学会にも声明に加わって欲しい旨、天文教育普及研究会の松村氏から要望が届いていることが紹介された。委員からはアピールそのものについての意義は大いに認めるとの意見が出された一方、せっかく行った調査の結果はもっとわかりやすく説明するべきである、制度導入による具体的な問題例を書き記すべきであるといった意見が出された。また、現在の案は地方公共団体に対してのアピール用になっているように見えるが、アピール先によって文案をもう少し変えるべきであろうとの意見も出された。今後は理事会を中心に積極的に関わっていくこと、教育委員会を通じて学会側のコンタクト役の適任者を見つけ、展開をはかって行くことが了解された。

## 8. 会費未納による除名者名簿

高田庶務理事より会費未納による除名者名簿が資料16において示された。除名を行った旨を該当者に通知すること、その該当者が未納分の会費を支払った場合は引き続き継続して会員として認められることを確認して承認した。

## 9. その他

### (1) 学術振興会からのメッセージ

家氏より科学研究費補助金に関する審査について、関係者の協力に対する感謝が述べられたと同時に、審査におけるの問題点について指摘が行われた。具体例として審査を引き受けたができなかった等の例があり、今後、そのような点については注意して欲しい旨要請があった。

### (2) 百周年の教科書の韓国における出版についての動き

岡村氏より、百周年記念出版である天文教科書「シリーズ 現代の天文学」を翻訳して韓国で出版したいという話が個人的に寄せられていることが紹介された。1,000部ほどの販売を考えていること、翻訳については金斗煥氏が全て行う意欲を持っていること、出版元の日本評論社に対しては既に金氏の依頼を受けた韓国の出版社が料金の打診を始めていること等が紹介された。委員からの意見として翻訳体制がしっかりしていないのではないかと指摘がなされ、韓国の天文学会などの全面的なバックアップなど、翻訳・査読体制について強化するべきではとの意見で一致した。指摘点を岡村氏より金氏にも伝え、今後の方向性を探ることとなった。

### (3) 学術会議の将来計画シンポ

佐藤氏より12月28日に行われた学術会議の将来計画シンポジウムに関する報告が行われ、今後1年をかけて将来計画を作成していく予定であることが紹介された。また、5月31日、6月1日に、今考えられている具体的プロジェクトについて理解を深めるため第2回目のシンポジウムを開催すること、近くプロジェクト計画者に対して講演募集のアナウンスを出すことが紹介された。

また、春の年会で将来計画に関する特別セッションも行われるので、特に若手を中心に多くの参加者を期待したい旨、あわせて報告された。

次回は春季年会中に開催、次々回は7月5日となった。なお、次々回の開催場所は東京駅の近辺で、緊急時の対応も考慮した会議場にしたい旨複数委員から意見が出され、事務局の方で検討することとなった。

2008年2月20日

議長 井上 一

署名人 家 正則

署名人 谷口義明